



秋に渡ってきた時はエクリプスだったカモの雄が、綺麗な冬羽になり見分けやすくなってきました。そこで今回は、ため池のカモに注目してみます。テーマは、どんなため池にカモが来るのかです。

●たいていの池にはカモはいない

大阪府はため池が多く、全国4位、約11,000ものため池があるといえます (<http://www.pref.osaka.jp/annai/qa/detail.php?recid=542> 2013年10月4日確認)。ため池があれば、カモなどの水鳥がいることを期待してしまいます。しかし、ため池があってもカモがいるとは限りません。

大阪市南部から松原市、堺市北東部のため池70ヶ所の水鳥を調べているのですが、その中で冬になれば必ずカモがやってくるのは、30ヶ所ほどに過ぎません。過半数のため池にカモは来ないのです。また山際や山間部にある小さなため池には、ほとんどカモは来ません。山手の小さなため池まで含めると、カモの来るため池の割合はさらに減ります。

●どんな池にカモは多いのか？

ため池や湖沼ごとにカモの有無や種構成が違ってくることは、多くの人が興味を持ち調べてきました。いくつか紹介しましょう。

羽田 (1952) は、長野県の5つの湖を比較し、潜水ガモは中栄養湖と富栄養湖、アイサ類は富栄養湖におもに生息し、貧栄養湖はおもに陸ガモに占められると結論しています。

武田 (1990) は、奈良盆地を中心にため池224ヶ所を調べました。カモが定着している池と定着していない池を比較した結果、カモが定着していた池は、短径が長く、全周囲が護岸されていることが少なく、抽水植物があり、住宅密集地に近いといった傾向を見出しています。

Shimada (2001) は、千葉県内の26ヶ所のため池を調べました。人がため池に接近できる岸から30mを除いた面積を“安全面積 (safe range)”と定義し、陸ガモ潜水ガモ共に、カモがいるため池の方が安全面積が広いことを示しました。

太田ほか (2006) は、香川県東かがわ市のため池38ヶ所を調査した結果、カモがいるため池には浮葉植物があり、浅い傾向があることを見出しています。

浦ほか (2008) は、全国25ヶ所の湖沼の調査結果を解析し、大型の湖沼や、近くに他の水源 (湖沼、河川、内

湾) がある湖沼で種数が多いこと。周囲に林が少なく、家庭排水の流入など人為的影響のある湖沼の方が種数が多いことを指摘しています。

どうやら、どんな池にカモが来るかは、一概には言えないようです。それを、自分の観察経験を加味して強引にまとめると、カモが来るため池は、ある程度大きさがあり、人からの影響を受けすぎず、休息に適した場所があるといったところでしょうか。

ここまでは、種を無視した話でした。では、個々の種はどんな池を選んでいるのでしょうか？

武田 (1990) は、キンクロハジロとホシハジロが池干しがあまり行われぬ池、オンドリが水辺に常緑樹林がある池を選んでいるとしています。しかし、その他の種では明確な傾向を見出せていません。浦 (2008) は、トモエガモが面積の大きな湖沼によく出現するという傾向を指摘しているだけです。どうやら個々の種がどのようなため池を選んでいるかは、あまり明らかになっていないようです。

●野外で実際に観察してみよう

既存の研究では、個々の種のカモがどんなため池にいるかは、あまり明らかにされていない。それこそ、カモをよく見ているバードウォッチャーに定番です。この種はこういう場所によくいるような気がする。と思ったら、その視点で各地のため池を見て回ってみましょう。思わぬ発見につながるかもしれません。

そういえば、オナガガモって、普通はあまりため池にはいないのに、給餌が行われているため池には多く見られるように思います。給餌との関わりというのも面白い視点かもしれません。

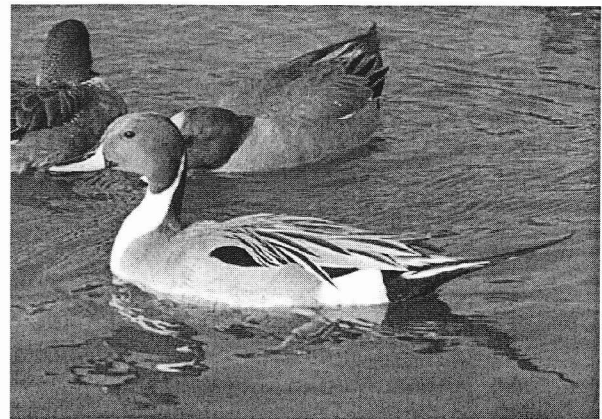


図2：オナガガモ (鶴見緑地大池 納家 仁)

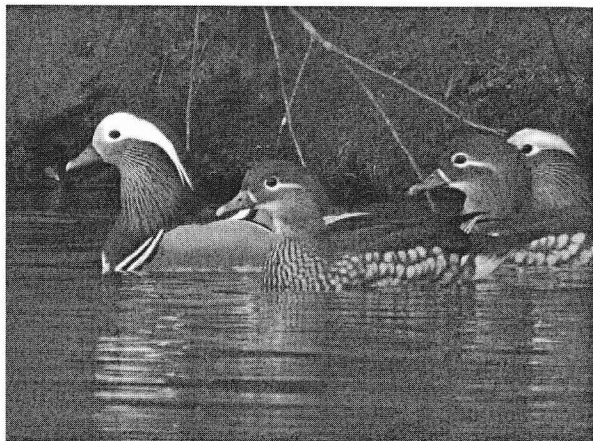


図1：オンドリ (和泉市梨本上池 納家 仁)

●引用文献

- 太田真由・岡田拓哉・佐戸一生・三谷恵子・滝 朋子 (2006) 東かがわ市のため池におけるカモ類の環境選択. *Strix* 24 : 49-56.
- 浦 達也・山田泰広・加藤和明・金井 裕 (2008) 越冬期におけるガンカモ類の個体数および生息場所の特性 全国的な鳥類調査「鳥の生息環境モニタリング 湖沼と河川をしらべる」より. *Strix* 26 : 31-63.
- Shimada, T. (2001) Roosting of ducks on open water: resting site selection in relation to safety. *Japanese Journal of Ornithology* 50 : 167-174.
- 武田恵世 (1990) カモ科鳥類の越冬する池の環境条件. *Strix* 9 : 89-115.
- 羽田健三 (1952) 湖沼の生産量を指標する雁鴨科鳥類の棲み分けについて (予報). *陸水学雑誌* 16 : 96-105.

和田 岳 (わだ たけし) : 本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>